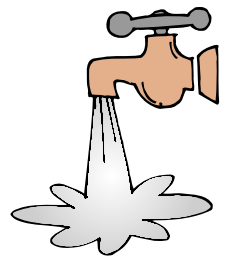


# 水道事業の経営を 見てみよう



市は、安全で良質な水道水の安定供給を図るため、みなさんが納付する水道料金などを財源として、毎年度、計画的に水道施設の整備を行っています。

水道事業会計の平成14年度の決算に基づく分析と平成15年度の予算執行状況などをお知らせします。

## 平成14年度の損益計算書を見てみよう

損益計算書【9ページ表1】をご覧ください。

この表は、1年間（平成14年4月～15年3月）に得た収益とそれに対する費用を表したものです。その期間中にどのような経営によって、どれだけだけの成績（純利益または純損失）を上げたかを示しています。

この計算書に基づいて経営を分析し、今後の経営の参考にすることができま。

『収入の部』は、事業の基本商品である『水道水』の料金が約93億円を占めています。その他の7億円は、給水設備の新設負担金や下水道使用料の徴収受託料などです。

一方、『支出の部』は、室蘭市からの水の購入費、配水管などの維持管理費、人件費などの営業費用が約80億円を占めています。その他の20億円は、国などからの借入金に対する支払利息などです。

この結果、収入が支出を約5千700万円上回っているため、平成14年度は前年度に引き続き黒字となります。

## 決算から水道事業の経営を分析しています

水道事業は、税金を財源としている一般会計などと違い、水道料金を主な財源として独立採算制で運営する『公営企業』です。

その経営の原則は、民間企業と同様に常に合理的かつ能率的な活動が求められています。

このことから市は、決算のさまざまな数値から、経営に関する分析を行っています【9ページ表2】。

## 平成15年度の予算執行状況

4月から9月までの予算執行状況は、【9ページ表3】のとおりです。

### 【営業活動にかかる収支】

収入は、長引く景気の低迷や人口の減少などで、使用水量が落ち込んだ前年度と同程度となっています。

一方、支出は、予算の約40億円が年度末に経理を行う減価償却費や支払利息などの経費のため、執行率は約30%となっています。

### 【施設整備にかかる収支】

収入は、予算の約98億円が国などからの借入金です。そのお金のほとんどが年度末に交付されるため、執行率は約23%となっています。

一方、支出は、配水管の整備事業や借入金の償還などにより、執行率は約47%となっています。